

## 姿勢矯正士

ジャンル：姿勢矯正整体

発生源：日本 発生源：2008 年 8 月 8 日（平成 20 年）

創始者：西本 伸（にしもと しん）

姿勢矯正士（しせいきょうせいし Posture Specialist）は日本姿勢矯正士協会本部が認定する日本独自の資格のことである。

人間が本来持つ身体の自然な動きを回復させて健康の改善を図る「姿勢矯正」をその目的とし、人体の重心や筋力バランスを総合的に捉え、関節の歪みを整える施術を行う専門家。不良姿勢や体の歪みを直すばかりでなく身体の不調症状も改善させる。施術に際しては「ハイパー モビリティ関節（hyper mobility joint）の克服」が不可欠であるという理念が重要な特長である。

## 概要

基本理念は「姿勢を正しくすることで健康が得られる」というコンセプト。病院では異常が無いと診断されたのに直らない肩こり、目の疲れ、頭痛、手足のしびれ、脚の疲れ、腰痛、その他不定愁訴と呼ばれる諸症状を独自の「姿勢矯正理論」と解剖学、神経学に基づいた独自の「テクニック」で安全に改善する。

症状に応じてモー ション・パルペーション（Motion Palpation）、モビリゼーション（mobilization）、アジャストなどを行う。その際 ハイパーモビリティ関節（hyper mobility joint）を守りながら必要な部分にのみにピンポイントでアプローチする安全性の高いケア・マニピュレーション施術も特長。

「姿勢矯正」により身体の不調症状を改善させるのであるが、特に「ハイパー モビリティ（hyper mobility）の克服」が不可欠であるという信念から独自のテクニックを編み出している。これは国民の健康を守る次世代の主要な治療法となる可能性が期待される。

整形外科病院での治療や理学療法士の領域で扱わない新しい分野を担い、また鍼灸師やマッサージ師の領域とは全く理念が異なるため、あん摩、指圧、マッサージの各手技は行うことはない。

## 歴史

創始者は当時、自ら行ってきた3万人を超える整体施術の臨床経験から効果的な姿勢矯正の理論とテクニックを編みだし独自の施術方法を確立したものの。

解剖学、臨床運動学、神経学等がその基本となる。姿勢の悪さから起こる、関節の歪みを矯正し、正しい姿勢に近づけることで、不定愁訴や肩こり、頭痛などの 諸症状を改善することを得意分野としている。ヘルニアなどの症状からくる痛みの緩和も期待できる。

## 資格

あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師、柔道整復師、理学療法士等の国家資格に基づく治療及び医業を目的としたものではなく、あくまでも民間資格である。

資格修得には「理論」と「テクニック」を学習するための研修教育が必要。

研修教育終了後、日本姿勢矯正士協会本部で実施される資格認定審査を受け、合格すれば「認定書」の発行をもって「姿勢矯正士」資格が与えられる。なお、資格認定審査のための研修教育は本部の他、各支部においても実施可能。

#### 参考

モーション・パルペーション (Motion Palpation) : ベルギー人カイロプラクターの Henri Gillet により開発されテクニック。その方法は患者が動く際に、施術者の手により特定の脊椎関節の動きを検査し行われる。その目的は脊椎関節の機能的な動きの評価であり、関節間における機能障害を査定するために行われる。motion palpation : technique developed by Henri Gillet, a Belgian chiropractor, in which the practitioner's hands are used to feel the motion of specific segments of the spine while the patient moves. The purpose is evaluation of the dynamic movement of the extra-vertebral joints and vertebrae to assess dysfunction between the joints.

モビライゼーション (モビライゼーション mobilization) : モーションパルペーションで動かない関節を発見し、関節の動きを取り戻すために、動かない椎体を振動させたりするテクニック。ハイパー モビリティ (hyper mobility) : 関節がゆるくなっている状態 (動きすぎの関節) があり、アジャストなど少しの衝撃でゆるい関節が簡単に動いてしまい症状が悪化することがある。自分で首をポキポキ鳴らすと一時的に気持ちよくなるという人がいるが、その症状は悪化していく。間違ったアジャストなどによっても簡単にバキ・ボキなどというクラック音が発生するが、危険である。

ケア・マニピュレーション : ハイパー モビリティ (hyper mobility) の関節を守りながら必要な部分にのみにピンポイントでアプローチする安全性の高いテクニック。ハイパー モビリティの関節がある場合は一般的に行われている頸椎牽引や頸椎をはじめとする脊柱へのアプローチは細心の注意が必要。緩くなった関節が簡単に動いてしまうことにより症状の改善が見られないばかりか悪化する場合がある。

また脊柱の状態や身体状況を十分把握しないまま行う無知な施術家の無謀なアジャストはハイパー モビリティ関節やその他の靭帯、筋肉等に損傷等を与える危険性がある。ケア・マニピュレーションは専門的な知識を身につけ、十分な経験を積んだ施術家のみが実施できるテクニックである。

外部リンク ・ [日本姿勢矯正士協会](#)